

視聴覚教育

NO. 357
発行日 21.11.19
発行 岡崎市AVL
編集 現職研修委員会
学習情報部

視聴覚用語
『無線LANアクセスポイント』
PC同士をつなぐために、無線を
中継する機器。以前は、メーカーが
異なると繋がらないことが多かった
が、現在では、規格が統一されつつ
あり、どのメーカーの物でも使用可
能になってきた。インターネットへの
有料・無料アクセスポイントが、全
国各地に設置されつつある。

全国大会ありがとうございました

現職研修委員会学習情報部長 大岡久芳

10月27日(火)午前4時、いつもより早く目が覚めて外に出ると、昨日の雨が上がり、満天の星である。ちょうど天頂のあたり、オリオン座が輝いていた。すると、流れ星が南の空へ。オリオン座流星群の名残りの名残りのか、「今日はうまくいきますように」と思わず手を合わせた。視聴覚教育と放送教育の合同全国大会が本校と甲山中での公開授業を皮切りに始まった。私の羽根小には、全国各地から、約五百名が訪れた。英語タイム、全クラスの授業、分科会、研究発表全体会を行った。アンケートに記されたことを紹介して、どんな一日だったかを想像していただけたらと思う。

【英語タイムより】

○英単語と発音、ジェスチャーが一度に目と耳に入ってきて、英語に親しんでいるなと思った。担任も子供と一緒に楽しく学んでいることがよく伝わってきた。
○教育委員会が教材を作成したとのことで、市全体で子供たちに英語を親しませていることがうらやましく思った。

【メディア機器を活用した授業公開より】

○何ととっても、機器の数があることがうらやましい。子供たちが普通ツールとして情報機器を活用していて、学習に生かしているの
がいいなと思った。

○従来の教科指導が主で、視聴覚機器が従という基本姿勢が感じられる公開授業だった。
○どの授業も非常に画期的で面白かった。機器を使うことは、視覚的には非常に効果的だと思いが、わざわざこの場面で機器を使わなければならぬのかという授業もあった。

【分科会より】

○フラッシュ型教材、教材提示器など、子供が食いつくような機器の紹介や教材の共有化についての話もあり、有意義だった。
○電子機器の利用法が実地でよく分かった。

【研究発表全体会・その他】

○洗練された発表だった。久しぶりに視聴覚ならではの発表を見せていただいた。子供たちの笑顔のシーンが最高だった。
○ICT化のみに偏ることなく、しつけや交流等にも力を入れていることに感心した。
夕方、暗闇の近づいた校庭を見ていると、ふと、今朝の流れ星を思い出した。

視聴覚教育あれこれ

●第13回視聴覚教育総合全国大会ならびに第60回放送教育研究会全国大会が開催

10月27日(火)・28日(水)に岡崎市市民会館をメイン会場にして、全国大会が開催された。

27日は羽根小、甲山中を会場に授業公開が行われた。機器を使うことが目的ではなく、めざす子どもの姿やコミュニケーションのあり方を高める手段の一つとして機器を使用している学校の姿勢が評価された。



28日の市民会館の全体会では、俳優・本木雅弘さんとNHKプロデューサー西村与志木さんによるスペシャルトークが繰り広げられた。NHKドラマ『坂の上の雲』の迫力のある映像や、本木さんの飾らない話し方がとても印象的であった。

続いて行われた研究分科会では、井田小の名倉嘉章先生が全国から選ばれ、小学校部会の司会を務めた。同じく全国から選ばれた美川中の川本祐二先生が「ICTで学びを深める社会科の授業」というテーマで実践を発表した。ラジオ聴取、紙芝居、教育テレビの利用、情報モラルなど、さまざまな手法による視聴覚教育・放送教育の実践が発表され、どの会場も盛り上がりを見せた。

実践報告Ⅱ

リコーダーの新しい練習方法

男川小学校 安尾 一輝

男川小学校の特別支援学級では、教室にあるパソコンで「メトロロップ」と音楽7つの城」を使って、リコーダーの練習をしている。

画面の「メトロロップと音楽7つの城」のアイコンをダブルクリックし、「リコーダーの城」を選ぶ。最初に、「レッスン門」を開くために、マイクに向かって大きな音を出し続けるが、これがなかなか大変である。低い音から高い音まで正確に出して、「レッスン門」をクリアする。それから、「チャレンジ門」に行き、曲に挑戦である。「ゆうやけこやけ」や「聖者の行進」など、いろいろな曲がある。今、特にがんばっているのは、「あの雲のように」と「オーラリー」の二曲だ。「テスト」に挑戦し、演奏が終わると、パソコンが採点してくれる。80点を超えると「なかなかやるね」95点以上で「すごいっぴー」などの声をかけてくれる。今までそう何度も出たわけではないが、100点が取れると、「満点っぴー」の声がかかり、すごくうれしそうである。

この成果を、美川ブロック特別支援学級交流クリスマス会で、発表する予定である。十二月の当日まで、子どもたちは毎日がんばって練習しようとはりきっている。



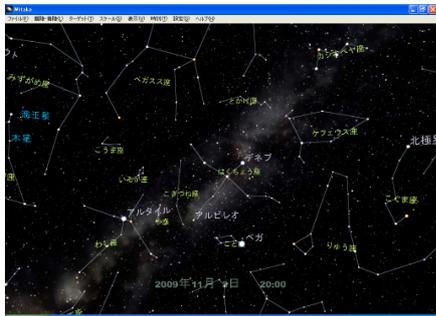
Ⅱレッツ・トライⅡ

「Mitaka」で宇宙旅行

中学三年の理科で天体の学習を行う。天体はそのスケールの大きさから、生徒がイメージをつかみにくい。また、授業の中で観察、観測を行うことができないため、どうしてもモデルを使って進めることになる。そんなときにこの「Mitaka」が役立つ。

この「Mitaka」は、国立天文台が開発した天体シミュレーターである。指定した惑星などを中心に宇宙空間を観察できる宇宙空間モードと、地球上から星空を眺めるプラネタリウムモードが用意されている。どちらのモードも時間経過による星の動きをシミュレートすることが可能になっている。天体の学習への動機付けとして、または月の満ち欠けの確認など、利用の仕方によっては教材として用いることも可能である。機能も充実している。地球から見える星空だけでなく、他の惑星から見える星空の観察や、星座線や惑星名の表示ができる。操作方法に慣れてしまえば、実際に宇宙旅行をしているような感覚になる。是非とも一度は生徒に使わせたいソフトである。

(<http://4d2u.nao.ac.jp/html/program/mitaka/>)



（新香山中学校 学習情報主任 長瀬裕二）

ライブラリーだよ

●第7回ふるさと岡崎

メディアコンクールのお知らせ

今年度の「ふるさと岡崎メディアコンクール」の作品募集の受付が、11月16日（月）から始まります。児童生徒が授業で取り組んだ作品や、先生方が授業のために作った作品など、3つの部門に多くの作品の応募をお待ちしています。ライブラリーのHP(<http://www.oav.l.jp/>)に応募表があります。ぜひ、ご参加ください。

【募集期間】

平成21年11月16日（月）～12月4日（金）

（郵送による応募も可）

【応募先】岡崎市視聴覚ライブラリー

〒447-8601 岡崎市普生町1丁目3番地1

【募集部門】

- ①生涯学習部門
- ②学校教育教材部門
- ③児童生徒作品部門

【テーマ】自由（生涯学習の学習教材、又は学校教材となるものとし、応募者の自作であること）

【利用メディア】

ビデオテープ S・VHS、VHS、Hi8、8ミリビデオ、DV等
マルチメディア FD、CD、MO、DVD等

